



平成12年（2000年）9月11日～ 12日

東海豪雨

（愛知県、岐阜県で記録的な大雨）

名古屋地方気象台

名古屋市及び周辺の市町村で多数の浸水害

堤防の決壊、河川の越水により広範囲で浸水害が発生し、都市機能が麻痺する甚大な災害が生じた。

庄内川水系の新川が破堤

【概要】

2000年9月、11日から12日にかけて、台風第14号の東側を回る暖かく湿った空気が本州付近に停滞していた前線に向かって流れ込んだため、前線の活動が活発となり、東海地方を中心に、記録的な大雨となった。

2日間の積算降水量は多い所で600ミリ近くに達し、**名古屋市では11日の日降水量が、平年の9月の月降水量の2倍となる428ミリ**となり、2日間の合計降水量が567ミリに達した。愛知県東海市では11日の午後7時までの1時間に114ミリ、日降水量492ミリを記録した。

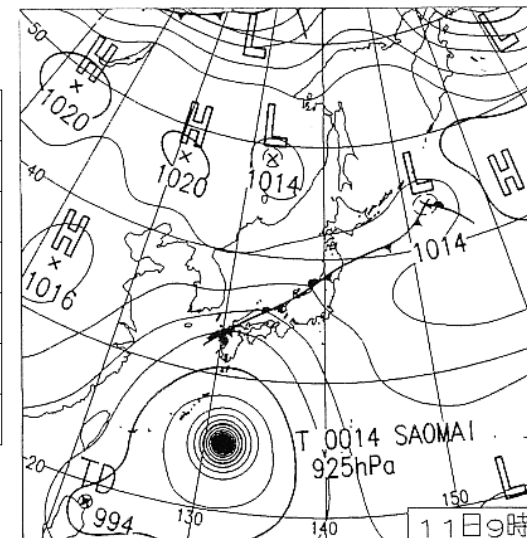


西枇杷島町付近 (現在 清須市西枇杷島町)
(提供：中部地方整備局)

	愛知県内	名古屋市内
死傷者	7名	4名
全壊住宅	18棟	4棟
半壊住宅	154棟	98棟
一部破損住宅	147棟	18棟
床上浸水住宅	22,078棟	9,818棟
床上浸水住宅	39,728棟	21,852棟

被害の状況

(平成13年7月31日現在 愛知県調べ)

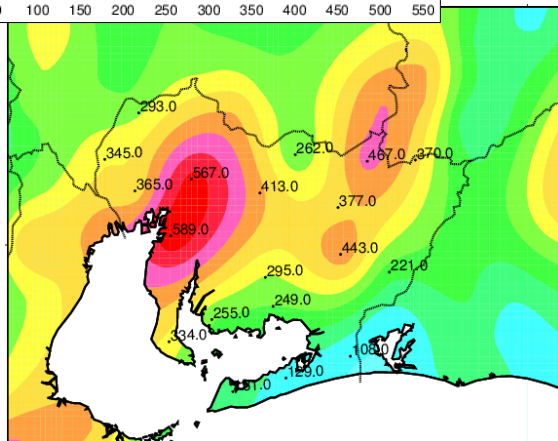
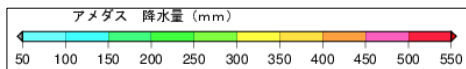


地上天気図
(2000年9月11日21時)

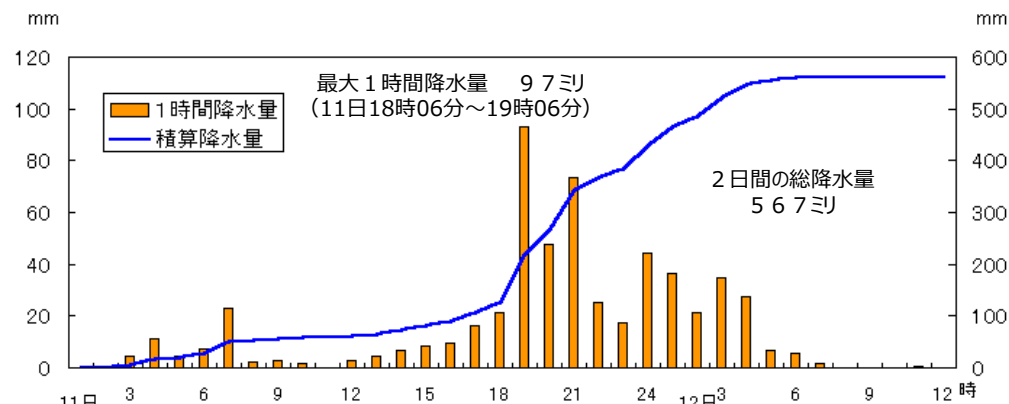
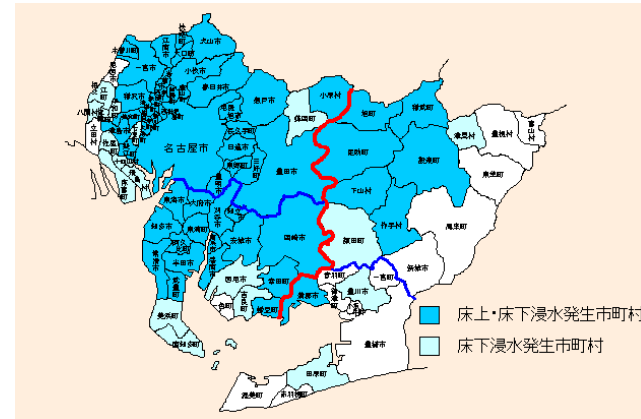


【雨の状況】

愛知県西部を中心に記録的な大雨となった。11日未明から降り始め、夜になると急激に雨が強まり、12日朝まで降り続いた。48時間降水量では、名古屋567ミリ、東海589ミリとともに平年の年降水量の3分の1を超えるなど記録的な大雨となった。名古屋市及びその周辺の市町村では、堤防の決壊、河川の越水により広範囲で浸水害が、また各地で土砂災害や竜巻による被害も発生した。



新川破堤箇所付近 (名古屋市西区)
(提供：中部地方整備局庄内川河川事務所)



降水量時系列図 (観測点：名古屋地方気象台)

観測要素	更新した極値	従来の極値
日最大1時間降水量	97.0mm 9/11 18:06-19:06	92.0mm 1919(大正8)/7/18
日降水量	428.0mm 9/11	240.1mm 1896(明治29)/9/9
最大24時間降水量	534.5mm 9/11 05h- 9/12 05h	315.9mm 1896(明治29)/9/9

東海豪雨における、名古屋の降水量の極値更新
(観測点：名古屋地方気象台)